

平成19年度 市功労者表彰



市では、2月3日(日)市役所・大会議室で、平成19年度市功労者表彰式を行いました。

式典では、さまざまな分野で本市の発展に尽くされている、15人を表彰するとともに、1団体に感謝状を贈りました。被表彰者・感謝状を受けられた方は、次の皆さんです。敬称略・順不同

表彰

市議会議員

西尾隆久、布施素子、柴田正廣、佐分利衛

消防団員

宮地幸治、小川隆夫、田中幹雄、水野浩康

民生児童委員

青山元治、川本春陽

都市計画審議会委員

林忠文

保護司

塚本恵一

産業

林鑑美

交通安全協会

中根真人、鈴木成巨

感謝状

東濃地区社会福祉事業協力会

～知ってください 考えてください～ 土岐市の財政のこと

このコーナーでは、財政の仕組みや本市の実情についてお知らせします。

総務課財政係 内線226・227

第9回 市の貯金のこと

今回は市の貯金についてのお話です。市では、貯金のことを基金と呼んでいます。本市には、さまざまな目的に合わせて19種類の基金があります(特別会計・企業会計を除く)。代表的なものとして、突発的な災害や緊急的な支出に備えるための財政調整基金、将来の市債(借金)の返済に備えるための減債基金、公共施設の整備・改築のための建設事業基金などがあり、必要なときに取り崩したり、預金利子などを運用して収入の不足を補っています。

さて、本市の各基金の残高合計は、平成18年度末(平成19年3月31日現在)で約81億円となっています。残高合計の推移は、右のグラフの通り平成12年度末をピークに減少傾向にあります。道路や施設を整備するために、基金を取り崩してきたからです。ちなみに、本市の残高合計がほかの自治体と比べて多いのか少ないのかという視点で平成18年度末の人口一人当たりの金額を近隣市と比較しますと、本市が130,357円であるのに対し、多治見市は139,506円、瑞浪市は115,655円でした。

本年度の当初予算では、約8億6千万円を取り崩して収入の不足を補う予定になっていましたが、現在の見通しでは全額を崩す必要はなさそうです。しかし、実際に

毎年度8億円ずつ取り崩していったとしたら、本市の基金は10年余りで底をついてしまうこととなります。

この先、少子高齢化がさらに進むと、福祉分野の費用がますます増大していくことが明白な中、基金をなるべく取り崩さないように市政を運営するためには、いかにしてほかの分野の費用を抑制できるか、いかにして収入を確保することができるかにかかっています。

基金残高の推移

(単位:億円)

